

平成27年度 見附市社会科部 活動報告

部長 倉石 智幸

1 研究主題

地域教材を活用した授業改善を目指して ～地域素材の教材化を通して～

2 研究の概要

見附市は、古くから繊維産業が地場産業として盛んに行われ、栄えてきた。市内には、現在でも繊維工場が多い。また、ニット祭りも行われるほど見附の技術が他地域に誇れる産業であることを示している。

そこで、繊維産業に関する地域素材を発掘し、教材化を図るとともに、個々の授業改善に生かしていくこととする。

3 研究の実際

(1) 期 日 平成27年8月20日(木)

(2) 会 場 株式会社マックスニット

(3) 内 容 ①ニット工場見学

②代表取締役社長 坂田政元様の講演「見附市の繊維産業の実際について」

①工場見学

マックスニット代表取締役社長の坂田政元様から工場内を案内していただき、ニット製品が作られていく過程を見せていただいた。マックスニットで作られる製品は大量生産するのではなく、多品種少量生産することで、ニーズに応じて出荷できるようにしているとのことだった。また、工場で働く人の中には外国人労働者も多くおり、現在は地場産業といえども外国人の労働力が必要となっていることが分かった。見学した際にも、中国の女性が作業を行っていた。坂田社長は、今後は、見附の若い人たちからも繊維産業を担ってほしいと話してくださった。



②マックスニットの現状と見附市の繊維産業の現状についての講演

前半は、株式会社マックスニットの創立から現在までの状況について話していただいた。マックスニットは、靴下の製造に始まり、その技術を生かしてセーターなどを作るようになった会社である。また、中国にも進出した経緯、近年の生産状況など具体的な現状も聞くことができた。

後半は、見附市のニット産業の現状に触れながら、大手のアパレル企業と見附の繊維会社の製品作りの違いについて聞くことができた。見附市の繊維産業の生産額は全盛期よりも下がっており、工場数も減っているが、各企業が工夫を凝らして見附の繊維産業を支えていることが分かった。



4 成果と課題

見附市を代表する繊維産業の工場を見学したり、繊維産業の現状を聞いたりできたことは地域素材について理解を深めるよい機会となった。また、繊維産業にかかわる人の思いに触れるとともに、改めてメイドインジャパンの素晴らしさを感じた研修会でもあった。この研修を生かし、地域素材を積極的に活用し、問題解決的な学習を展開していけるよう授業改善に努めていきたい。